

「お金のしつけ、していますか？」

10年、15年後の子どもの未来を見据えて

2018年11月29日（木）

講師：竹谷希美子（たけやきみこ）

ファイナンシャル・プランナー／お金の教育専門家

＜講師紹介＞

竹谷 希美子（たけや きみこ）SAKU株式会社 代表

ファイナンシャル・プランナーCFP(R)／長女 新社会人、長男 高校3年生の2人の子の母

小中高等学校、専門学校、地方自治体、金融広報委員会(日銀)などでのパーソナル・ファイナンス教育や大学でのFP資格養成講座、大手企業向け社員研修など講演や研修を行う。女性のアイデアと発想力を活かす金融専門の編集・制作プロダクション業務を事業として行う。

NHK情報番組あさイチ「子どものお金教育」に生出演、日本テレビ news every に専門家として出演！

おもな著書『マンガでわかる！子どもにちゃんと伝わるお金の「しつけ」』（近代セールス社）、『一生お金に困らない子どもの育て方』（幻冬舎）、『PTAで大人気のお金教育メソッド 一生役立つお金のしつけ』（KADOKAWA）、『12歳までにはかならず教えたいお金のこと』（かんき出版）、『夫婦で年収450万円でも子ども2人とマイホームを持つ方法』（大和書房）、『あと100万円ムダを減らす！お金見直しパイブル』（かんき出版） ほか

《子どもの成長に合わせた お金のしつけ》

■お金のしつけはどうして必要？

■お金のしつけの STEP はコレだ！

●小学生 1～2年生

●小学生 3年～4年生

●小学生 5年～6年生

■たけや家の教育方針 & 子ども達

■Needs & Wants

〈お金のしつけ 実践編〉

■おこづかいのはじめどき、はじめ方
・いつから、いくらから？

・おだちん制と定額制

・KANRI箱を活用しよう(おこづかい帳や計算が苦手でもOK)

・子どもが主役！親は見守り

■4つの力をつけよう！

「交渉力」

「プレゼン力」

「マーケティング力」

「管理力」

●お年玉の活用～高額な物こそ子どもに買わせる経験を！

■ルール5か条

1. お金の貸し借りはしない(高等学校で借入について学ぶ)
2. 鍵がかかる場所に保管する
3. 本当にほしい(必要)かどうか、3日間(○日間)考える
4. お金もモノも大事にする(無くなったら必ず探す習慣をつける)
5. 困ったときは、「親」に相談する

■『親としてできること』

第三回 家庭教育学級をふりかえって

家庭教育学級委員長 久延 志真

副委員長 原田 幸子

11月29日(木)に、第三回家庭教育学級が開催されました。今回は「お金のしつけ、していますか? —10年、15年後の子どもの未来を見据えて」をテーマに、ファイナンシャルプランナーでお金の教育専門家でもある竹谷希美子様にご講演いただきました。たくさんお話いただいた中から、ごく一部ですがご紹介いたします。

お金の教育

●「生きる力」を育む機会(生活設計ができる大人になる) — お小遣いは世界で一番小さい経済

●金銭教育は12才までに育む「心の教育」 — 子どもが素直なときに、いろんな経験&教育を!

お金の話はもうタブーではない/知らないでソソるなんてもったいない! 小・中・高・大と家庭の中でお金の話をしていくことが大切/この先、経済はどうかかわるのか...? 少なくとも、お金に関する学びが少しでもあったほうがいい。子どもたちには判断できる材料がたくさんあってほしい

「生きる力」をつけよう

- ・社会・経済の状況を把握する — 世界の中の日本、日本の現状・政策
- ・予算立てをする、仕分けができる、貯金ができる(貯蓄の意味を理解する)
- ・判断できる大人になる — ニーズ[必要なもの]とウォンツ[ほしいもの]の区別ができる

<お金のしつけの STEP>

●小学生 1~2年生

- ・おかいものをする
- ・ほしいものは駄々をこねても手に入れないことを教える
- ・教育方針をざっくり決める(どんな大人になってほしいか)
- ・お小遣いを始めても
- ・簡単な足し算引き算

●小学生 3年~4年生

- ・お金をためることを学ぶ
- ・ニーズ(必要なもの)とウォンツ(ほしいもの)の区別ができる
- ・お小遣い帳をつける(つけられそうなら)

●小学生 5年~6年生

- ・お金は有限だと理解して、やりくりさせる。どういう工夫ができるか考えさせる
- ・お小遣いを通して、お金の流れを理解させる
- ・計画をたててお金を使えるようになる(高額な物も子どもの力で買わせる)

<お駄賃制か、定額(お小遣い)制か?> ←ご家庭の教育方針で決めていい

●定額制の場合 — お金教育のためにお小遣いは有効。目的をもって渡すことが大切

- 1 子どもが使っているお金の項目を洗い出す(1カ月分書き出す)
- 2 その中で何をお小遣いでやりくりするのか考える
- 3 中学年からは文房具も管理させる(文房具代もプラスする)
- 4 事前にお小遣いの範囲を決める ★Point
- 5 お金の管理方法を決める(さいふ、お小遣い帳など)
※[お小遣い帳を使うなら...]シンプルな通帳タイプがいい(毎月の繰り越しがないタイプ)/無理させない、長続きさせるためのもの/月に1回は見てあげる(やらせっぱなしは×)
★Point あなたのやりくりは、ここからここまでの間と範囲を与えることが大切

●お駄賃制の場合 — 頑張る分だけお金がもらえてやる気アップ。仕事内容なども自分で考えさせることが大切

- ・契約した仕事内容以外のお駄賃はあげない
- ・子どもが自分の仕事を探して親へ交渉(金額も)
- ・納得したら契約
- ・「ありがとう」という言葉をかける(仕上がりを見て、よくなかったらお駄賃はあげない)
- ・お駄賃はすぐにあげる(「あとでね」はやる気をなくす)

■お金のルール5か条

- ・お金の貸し借りはしない(高等学校で借入について学ぶ)
- ・鍵がかかる場所に保管する
- ・本当にほしい(必要)かどうか、3日間(0日間)考える
- ・お金も物も大事にする(無くなったら必ず探す習慣を)
- ・困ったときは、「親」に相談する

●お年玉の活用 お年玉はボーナス。高額な物こそ子どもに買わせる経験を

[最後に...] お金の教育も子どもが主役! 親は見守りの姿勢で。子どもを信じてやらせてみる。失敗OK! 親の目が届くうちにたくさん失敗を。